(様式第３号)

令和４年８月８日

議員視察報告書

赤穂市議会
　議長　山田　昌弘　　様

議員氏名　田渕　和彦
〃　荒木　友貴
〃　安田　哲

下記のとおり、先進地視察を実施したので、報告します。

記

１．実　施　日　　令和４年７月２０日（水）～　令和４年７月２１日（木）
（２日間）

２．調査市及び主な調査項目(詳細については別紙のとおり)

（１)特定非営利活動法人シクロツーリズムしまなみ（令和４年７月２０日（水））
「しまなみ海道」サイクルツーリズムについて

（２)しまなみ海道サイクリングロード現地視察（令和４年７月２０日（水））

（３）一般社団法人しまなみジャパン（令和４年７月２１日（木））
広域連携による観光振興について

視察地：特定非営利活動法人シクロツーリズムしまなみ
日　時：令和４年７月２０日（水）１３時～１４時３０分
場　所：ゲストハウス「シクロの家」（愛媛県今治市北宝来町１丁目１－１２）
説明者：ポタリングガイド　宇都宮　一成　氏

＜目　的＞

地域のまちづくり活動が発端となり設立された民間事業者である「NPO法人シクロツーリズムしまなみ」のサイクルツーリズムの振興に果たしてきた役割と行政との連携について学び、中間支援組織のあり方、まちづくりのあり方について考える。

＜内　容＞

・サイクリング黎明期の頃、平成１７年から自転車モデルコースづくり事業(国交省)を３年間手掛ける。その中で、大手旅行雑誌に載らない地元ならではの情報を集め、スポットとして落とし込みサイクリングコースを「地元力」で作り上げることに注力した。そうすることで、三島(伯方島、大三島、大島)の住民の中に地域資源を共に発掘するという視点が芽生えた。
・事業終了後、この繋がりを解散させるのがもったいないという意識から、平成２０年、住民主体の「しまなみスローサイクリング協議会」を立ち上げ、さらに地域密着型旅行エージェント及び地域住民参画型の組織の設立を目的として、平成２１年１月２５日に「特定非営利活動法人シクロツーリズムしまなみ」を設立。現在でも各島民との協力体制を維持している。
・サイクリングの振興が目的ではなく、しまなみ海道各島の豊かな自然と、その自然に支えられた地域の暮らしが織り成すアーティスティックな風景を「風景アート」と捉えて、自転車で「風景アート」をゆっくりと楽しむ中で、地域の自然・歴史・伝統を守り、伝える感性、様々な事象と人々の繋がりを熟成させる新しい価値観を生み出し、持続可能な地域の暮らしを実現することを目指した。
・「しまなみで期待するサービス」というアンケート調査で、ニーズ把握ができ、行動するべきことが見えてきたことが転機となっており、ニーズの高かったマップ（島走マップ）、安価な宿（ゲストハウス「シクロの家」）、トラブル対応（しまなみサイクルオアシス、しまなみ島走レスキュー）について、課題を共有し順次改善している。
・道路標識、路面標示、案内看板といったハード面での整備については愛媛県実施。サイクリングに特化した「島走マップ」については、NPO が２年に１回更新作業を行っている。
・道中の故障対応は、それまで愛媛県側の各島には自転車屋がなく修理などの対応が難しかったことから、愛媛県の委託事業により休憩スポット「しまなみサイクルオアシス」を設置し、レスキューの情報も周知できるようにしている。サイクルオアシスを引き受

けてくれる店舗等は、「できる範囲の協力・応援」を前提に登録してもらっており、サイクリスト側にもそのことを伝える役割をNPOが担っている。

・JRとの協働により実施したサイクルトレインの取り組みについては、あくまで時限的実証実験として実施。令和４年度よりJR独自の実証実験では、通常車両への自転車持ち込み（混乗）が可能となるまでになり、自転車文化の先進地であるヨーロッパに少しでも近づくきっかけとなった。

・自転車先進都市の推進のために、２～５歳の子供を対象とした自転車イベント「しまなみランニングバイク選手権」を自主事業として実施。親や祖父母も巻き込んだイベントになり自転車文化の振興に有効な手段となっている。

＜所　管＞

・NPOとしての今後の展開を伺った際に、新規事業を行う以上に、ロードマップのリニューアルやサイクルオアシスなどに協力して下さっている地域の方々のフォローアップをはじめ既存事業の地道な継続が重要であり、これまで築いた関係性を再構築したいと仰っていた。「作って終わり」ではない本当に地域に受け入れられる活動の基礎を学べた。

・地域活動としてのサイクルツーリズムの振興は、移住者による起業を生み出し、定住にも繋がるなど新たな地域の活性化を誘引している。

・「シクロツーリズムしまなみ」の活動を学び、地域の活性化にはまず地元が主となり取り組むことが大切なこと、目的の達成には人づくりから始め地域と共に取り組んで行く仕掛けが必要と感じた。

・赤穂市でも地域おこしの取り組みが始まっており、行政がそれに気付いて吸い上げられるかも重要であり、そういう意味では行政職員の意識の持ち方も重要であると考える。

・法人の立ち上げから経理・労務管理を担える人材がいることが組織の持続的な運営を可能にしている。

・行政等の委託事業及び旅行商品やオリジナルグッズ（サイクリングマップを含む）の販売が主な収入源となっているが、新型コロナウイルスの影響により収益が悪化しており行政支援の必要性を感じた。

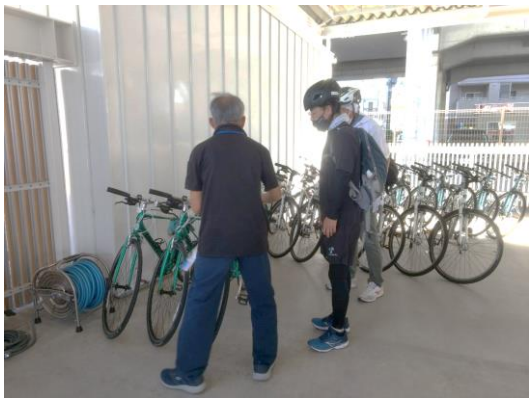
視察地　：しまなみ海道サイクリングロード
日　時　：令和４年７月２０日（水）１５時３０分～１９時３０分
走行区間：今治駅～大島（亀老山展望公園）往復約３７km
宿泊地　：ゲストハウス「シクロの家」

＜内　容＞
「しまなみ海道サイクリング」のソフト・ハード面での整備状況について、自転車の予約・貸出し、コース案内、道路整備を含めて、実際にサイクリング体験をすることで確認した。また、宿泊についてもサイクリストが利用するゲストハウスに宿泊した。

「しまなみ海道サイクリングロード」今治側出発地
「今治サイクルステーション」
今治駅前サイクリングターミナル
　営業時間　8：00－20：00
　業務内容　レンタサイクル受付
　　観光案内
　　シャワー施設

レンタサイクル貸し出し手続き
　ネット事前予約済み

自転車の取扱い説明他



しまなみ海道サイクリングロード
　道路上にブルーライン及び最終地までの距離が表示されており迷わず走行できる
　橋梁自転車専用道案内

橋梁自転車専用道

目的地までの距離案内標識

ナショナルサイクルルートの表示

休憩スポット　ロード案内図

サイクルスタンド

亀老山展望公園

大島南部、標高307m

・旅行口コミサイトTripAdvisor「旅好きが選ぶ！日本の展望スポット2017」２位

・設計は建築家隈研吾氏。自然景観を守るために外からは見えない造りになっている。

ゲストハウス「シクロの家」

外観　空き古民家改修

受付カウンター、グッズ販売

コミュニティルーム

ベッドルーム（４人相部屋）

＜所　感＞

・走行体験の”しまなみ海道サイクリングロード”は、ＪＲ今治駅からＪＲ尾道駅まで車道の左端にサイクリング推奨ルートを示すブルーラインとピクトグラムが整備され、進行方向や距離などが路面に示されている。地図がなくても目的地へ行くことができる。

・自転車の左側通行や車道走行をサイクリスト以外の方に知って頂くためにもブルーラインやピクトグラムは有効な手段となっている。赤穂市もモデルルートを設定し、道路整備に合わせてブルーラインやピクトグラムの整備を考えてもよいのではないか。

・道路標識の設置に当たっては、サイクリストの目線や他の歩行者などの安全性も検証してつける必要性を感じた。

・宿泊体験は、サイクルストからの評価が高いゲストハウス”シクロの家”を利用した。今回の視察の目的は宿泊も重要な要素で、サイクリストや一般のサイクリング観光客のニーズを踏まえた施設整備、運営が必要と感じた。

視察地：一般社団法人しまなみジャパン
日　時：令和４年７月２１日（木）９時～１１時３０分
場　所：今治市民会館３階（愛媛県今治市別宮町１丁目４－１）
説明者：専務理事　坂本　大蔵　氏
　　事務局長　越智　教朝　氏

＜目　的＞
アメリカ旅行情報サイトにより「世界7大サイクリングコース」に選定され、第１次ナショナルサイクルルートの指定（国土交通省）を受けるなど、しまなみ海道サイクリングの認知度は国内はもとより世界レベルにある。サイクリングの活用による県域を越えた地域振興の取組みについて伺う。

＜内　容＞
・一般社団法人しまなみジャパンは、平成２９年にこれまで任意団体であった「瀬戸内しまなみ海道振興協議会」を発展改組し、マーケティング戦略のもと広域マネジメントによる圏域観光振興を目的として設立された日本版DMO組織として誕生。
・本部事務所は今治市に立地し、正規職員７名、行政出向者（尾道市、今治市）２名、民間出向者（博報堂、JTB）２名で運営。令和４年度より愛媛県サイクリング普及調整監であったの坂本氏が県を定年退職し、専務理事に就任。
・平成２２年に中村知事が就任して以来、そのトップダウンのもと自転車大手メーカー台湾GIANTとの交流をはじめ、瀬戸内しまなみ海道サイクリングによる地域振興に注力。以後、愛媛県が広島県を引っ張る形で広域サイクリングロードの環境整備を進めていく。
・愛媛県庁では、庁内外にサイクリング振興のための組織を設立し、官民、部局横断的に取り組める体制を整え、愛媛県自転車新文化推進計画に基づき戦略的に施策展開を図る。
【施策の柱】
自転車県としてのブランド化（国際大会の開催、広域ルートの設定）
おもてなし態勢の整備（愛媛マルゴト自転車道、サイクルオアシス）
自転車利用の普及・拡大（子供、女性、シニア、ファミリー層への普及啓発）
自転車の安全利用（シェア・ザ・ロードの啓発、ヘルメット着用推進）
・ＳＤＧｓの１７目標のうち１１目標で自転車の活用推進が重要な問題解決の取り組み・方法とされており、地域振興、健康増進や医療費削減など脱炭素社会や人口減少下で地域を繋ぐ新たな取り組みとして全庁横断的に取り組んでいる。
・自転車文化の醸成において若い世代をターゲットに設定。スポーツタイプのヘルメットを県立高校に３万個を配布。子ども達に安全・安心に自転車に乗ることを教えることで、保護者へも自転車文化が広まり、併せてドライバーが安全運転を行うようになるなど相乗効果も生まれている。

・県庁OBが役員を務める愛媛県商工会議所連合会が事務局を担っている民間応援組織「サイクリングパラダイスえひめ推進会議」は県内423社の会員数で組織され、行政の旗振りだけでは進みにくい部分を民間が担ってくれたことは効果的であった。
・一般道も含めたサイクリングロードの維持管理については、愛媛県職員が毎年自転車で沿道パトロールを実施し、整備の緊急性を ABCD のランク付けで行っている。

＜所　管＞
・人口減少が進む中で、赤穂市も瀬戸内海国立公園沿線や日本遺産、また千種川流域の自然環境と山城や遺跡等の資源を活用した地域作りの一つに自転車の活用を考える必要があると感じた。
・モデルコースの設定においては、市内で完結するのではなく近隣の岡山県、千種川沿いの佐用町、上郡町との広域連携も視野に入れることが不可欠であると感じた。
・県内地場企業や大手コンビニが休憩スポットとして協力したりと、サイクリストウェルカムの機運を官民連携で実施している。地元に浸透しやすい官民の関係性を構築することが重要であり、赤穂市の観光課、DMOも力を入れていく必要があると感じた。
・愛媛県職員であった坂本氏は自らがサイクリストであり、台湾一周、四国一周を経験し、国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ」の企画運営に従事。さらに自転車新文化推進室の室長、サイクリング普及調整監を歴任するなど「しまなみ海道サイクリング」を世界的なサイクリングロードにした立役者である。知事のリーダーシップがあったからこそ生まれた行政職員であると感じた。